

剣道人 1

愛知県西尾市

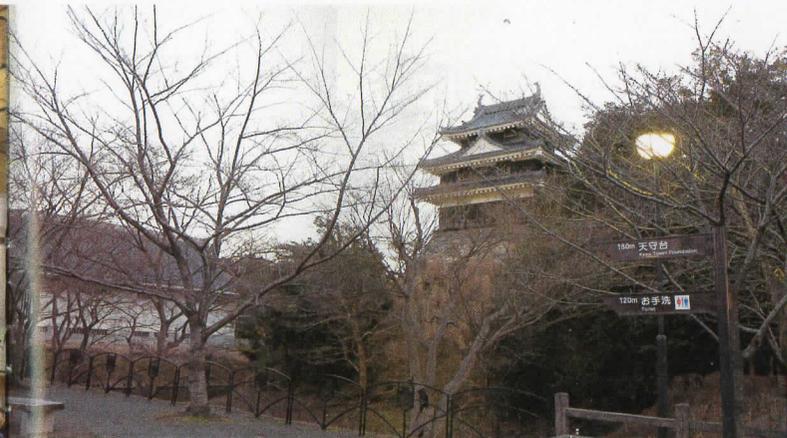
第60回中部日本剣道大会



「剣道のまち」で 昭和25年に始まった 伝統の大会

西尾は六万石の城下町。西尾城(旧名は西条城)は鎌倉時代初期に足利義氏が築いたと言われる。平成8年に写真の本丸丑寅櫓(うしとらやぐら)などが復元され西尾市歴史公園となっている

撮影・編集部



中部日本剣道大会の前身である昭和25年の近県日本剣道団体対抗試合。芝居小屋である西尾劇場で行なわれ、試合は両者が護手をしてから始めた(「西尾市剣道連盟五十周年記念誌」より転載)

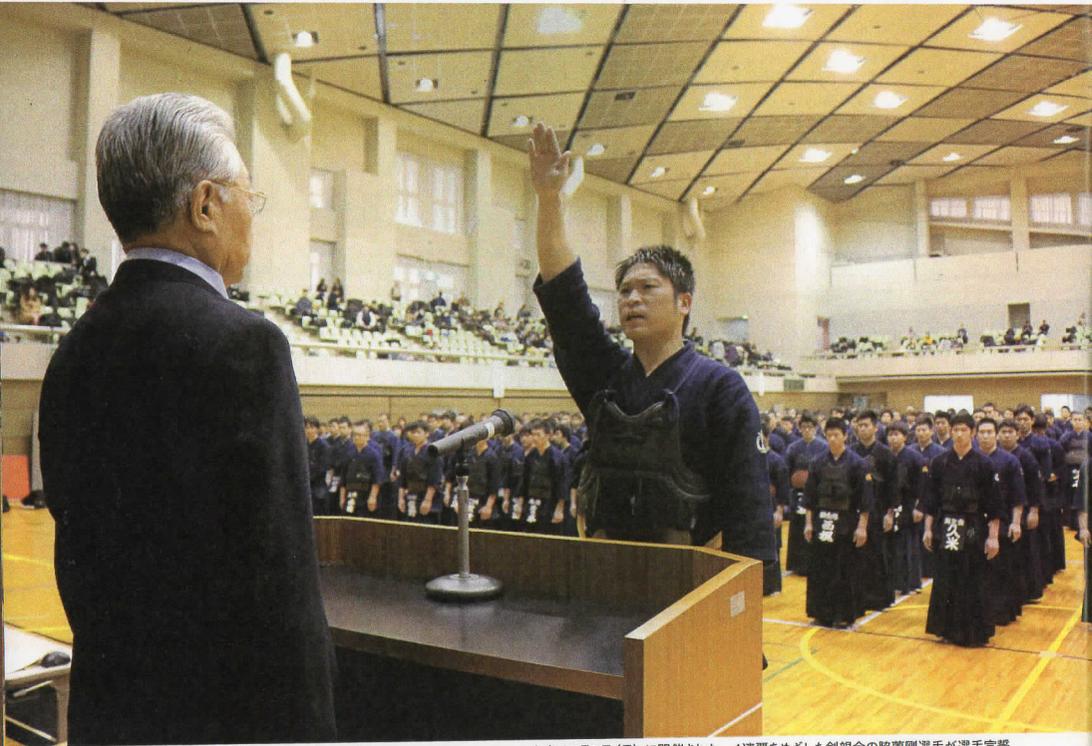
人 人口約17万の西尾市は、西に矢作川が流れ、南は三河湾を望み、東に山々が連なる、豊かな大地と温暖な気候に恵まれた城下町。抹茶の生産地としても知られる。東海道線や新幹線から少しはずれているからか、のんびりとしたムードが漂う西尾は「剣

道のまち」なのだという。戦災を免れた西尾町の剣道復活は早く、昭和22年10月には「西尾芳友会」が稽古を再開した。隣の平坂町(現在は西尾市)でも翌年9月には稽古を始めている。一方名古屋ではその名も「ジャパニーズフェンシング協会」が昭和23年にいち早く結成され、昭和24年10月には第1回ジャパニーズフェンシング大会を開催した。この大会には西尾、平坂の剣士も出場し、翌年1月の第2回大会では西尾芳友会が優勝を果たしている。

ジャパニーズフェンシングは名古屋を中心とした地域的な活動だったようだが、撓撃技とは違うもので、剣道の稽古着袴、防具を着用し、試合は三本勝負、三審制で、選手は立会の間で礼をした後、歩みよって甲手をつけたまま握手をし、間をとって抜刀し臍踏はずせに構えて試合を始める、という独自の方式を採っていた。やがて西尾芳友会でも剣道大会の開催が企画され、昭和25年5月、「近県日本剣道団体対抗試合」の開催にこぎつけた。これが中部日本剣道大会の前身である。

一般の人々の「来場歓迎、入場無料」として西尾劇場で開かれた。西尾劇場は昭和15年に開館した芝居小屋で後には映画館となり、近代化産業遺産ともなったが、つい先ごろ、平成26年に取り壊された。昭和25年3月に全日本撓撃技連盟が発足しているが、この大会はジャパニーズフェンシング方式で行なわれている。14チームが出場し、優勝は名古屋鉄道局。大将としてのちに第6回全日本選手権で優勝する鈴木守治が加わっていた。

翌年は第1回中部日本剣道大会と名称を改めて大会を開くが、今度は撓撃技の規則により行なわれ、京都から小川金之助(ちの範士十段、宮崎茂三郎(範士九段)らが参加して五人掛けを披露。天道流薙刀の榊田八重子、栄姉妹も参加した。この大会では撓撃技の交歓稽古を披露している。個人戦も行なわれた。愛知は剣道復活が早く、撓撃技に積極的に取り組んでいた。この時期の愛知県の動静は戦後剣道史の中でも注目される。昭和27年10月に全日本剣道連盟が発足し、28年の第3回中部日本剣道大会から



大会は2月7日(日)に開催された。4連覇をめざした剣親会の協賛剛選手が選手宣誓

平成6年に「わかしゃち国体」剣道会場となった西尾市総合体育館。その年から本大会もここで開かれている



主管をつとめる西尾市剣道連盟の田中浩二会長。主催者は西尾市、西尾市教育委員会、西尾市体育協会、開会式では神原康正市長が挨拶に立った

は剣道の規則が採用された。同年末に西尾市制が施行され、翌年の第4回大会から主催者は西尾市となる。その後も、昭和30年から32年までは大会が中断、昭和34〜35年も行なわれないなど(伊勢湾台風の影響か?)の紆余曲折を経て、昭和43年からほぼ2月初旬に開催日も定着する。そして今年で60回目の節目を迎えた。試合は5人制の団体戦で、今年は105チームが出場した。そのうち90は愛知県内のチームで、他には静岡、岐阜、三重、

石川など近県から参加、さらに60回記念大会ということで、兵庫県赤穂市の赤穂剣道連盟チームを招待した。西尾市の旧吉良町は吉良上野介の領地である。すなわち忠臣蔵の縁によるものだ。赤穂市の剣士が参加するのは初めて、前日には赤穂剣道連盟を交えて50〜60名が参加し稽古会が開かれた。

愛知県内からは警察の特捜員で組んだチーム(剣親会)をはじめ、刑務所や拘留所、実業団などのチームが参加している。過去には教員や学生、道場のチームが優勝したこともあるが、近年は剣親会が優勝候補筆頭で、昨年まで3連覇を果たしている。

出場資格に特色がある。五人合わせて段位が十七段以上、そして女子のチーム、男女混成チームも参加可能という点だ。



開会式では105チームが一齐に入場行進をして位置につく

「以前は十五段以上だったのですが、もう少し格調高いものにした」ということで十七段ということになりました。女子も出られるというのは全国的にも珍しいと思いますし、県警の選手などレベルの高い選手も出ています。現在は1日にこなせる試合数を計算して120チームを



試合は8試合場を使って行なわれる。写真は4試合場となった準々決勝の場面

決勝、剣親会×西友会。剣親会は先鋒谷が二本勝ち、次鋒引き分けのあと中堅北村も二本勝ちを取め王手。副将野田はドウを奪ったあと、コデに踏み込んで二本目を奪う(写真)。結局4-0で剣親会が優勝



準決勝、西友会×春風会。春風会の先鋒栗田の一本勝ち以外は引き分けが続ぎ、大将戦を迎える。西友会の兵藤(裕)は、ドウを抜いて一本を奪う(写真)、さらにひきゴテを決めて一気に逆転した

- ◆大会結果
- 優勝・剣親会(名古屋市)
 - 2位・西友会(西尾市)
 - 3位・名古屋刑務所A(みよし市)
 - 3位・春風会(豊橋市)
- 敢闘賞(ベスト8)
- 岡崎医療刑務所(岡崎市)
 - 豊田市剣道連盟A(豊田市)
 - 華陽剣道クラブ(岐阜県羽島郡)
 - 東レ名古屋A(名古屋市)

上限にしていますが、以前は他県からもっときていたのだと聞いていたこともあり、幅広く出場できる形を検討しています」(西尾市剣道連盟・田中浩(会長))

西尾市剣道連盟の女性剣士で組んだまっちゃん会、東海市のもやしこなど女性だけのチームが実際に出場し、なでしこは2勝して3回戦まで駒を進めた。決勝は地元出身の剣士3名を含み中大、法大など強豪大学出身者が組んだ西友会と、剣親会



赤穂剣道連盟

赤穂剣道連盟からは役員7名と選手5名が参加。これまで赤穂で11月に開かれる忠臣蔵旗少年剣道大会に西尾市のチームが数回参加しているが、赤穂市からのこの大会への参加は初めて。チーム5人の段位合計三十三段は全参加チーム中最高だった。1回戦は突破するも、2回戦で若い愛知教育大学に代表戦の末敗退した。「本当にレベルの高い、素晴らしい大会だと感じました。うちはみんな50歳に近い選手で(笑)、ほかのチームは若い選手が多かったですね。いい経験をさせていただきました」(岩本和也会長・写真左)



祝賀司さん(審判長)

審判長をつとめた祝賀司八段は、かつてこの大会で3回優勝している。「そのころ育志会という教員のチームが強くて、それを叩いてやろうと(笑)、安ヶ平(博・大同特殊鋼)さんや、名古屋刑務所にいた菅波(元一・龍士八段)さんらと“真剣会”というチームを組んで出て優勝したんです。その後は勤務する名鉄のメンバー中心に出ました。35年ぐらい前です。当時の名鉄バレーと警察が交互に優勝している時代があったり、大学生が若さで勝った時代もあったりして、職種を問わず競い合う、なかなか面白い大会でした」



なでしこ(東海市)

実業団、教員、自衛官と普段は別々の場所で稽古する、20代から30代の女性5人で組んだチーム。1、2回戦を突破し3回戦で豊田市剣道連盟Aに惜敗。昨年もメンバーは違ったが出場し、4回戦まで進んで大将戦で敗退という結果だったという。「今年ももうちょっと上まで行きたかったです。スピードも違いますし、今日みたいに振られて飛ばされてしまったりするので、それ以上の気持ちでいかないとケガしてしまうと思って一生懸命やりました。男子にどうしても勝ちたい! 来年もまたやろうという気持ちです」(古澤麻衣さん)



剣親会(優勝)

谷亮太、中村太亮、北村亮祐、野田篤史、脳富賢。監督＝近木巧。県警機動隊の選手たちで組んだチーム。中村さんは西尾市出身。1カ月弱前から集合しての練習が始まり、例年この大会が最初の対外試合となる。「若いときにこの大会に出て負けたこともあるので、大将になって、優勝できたということが一番うれしいです。ただ勝つだけではなくて、礼儀などもしっかりとできて、結果もついでにきたので良かったです」(大将・脳富さん)



西友会(2位)

杉浦佑基、兵藤佳尚、村川雄輝、北川清太、兵藤裕利。監督＝兵藤直樹。兵藤さん兄弟と杉浦さんが西尾出身。桐蔭学園高校の同級生を加え、中大、法大、国士館大などで活躍した選手が揃った強力な布陣だった。「去年もちょっと違うメンバーで出ました。警察官はやはり練習もしていますし、私は実業団でやっているのですが、もっと練習しないとまだまだ及ばない気がしました。今は試合に出る機会が年に2回の実業団大会以外にはこういった地方の大会しかないの、この大会はありがたいです」(大将・兵藤裕則さん)

の対戦となり、剣親会が4連覇を達成した。西尾藩は江戸時代前半は藩主がめまぐるしく交代したが、後半は松平氏が代々城主となり、「文武双肩」「文武双壁」の考えを鼓舞して、江戸末期には西尾藩の武術は海道一と称されるまでになった。維新後も明治27年頃から西尾小学校で撃剣が随意科として採用されるなど、剣道が盛んだこととして、その伝統を受け継ぎ、(旧)西尾市ですべての小中学校に剣道部があるという。小中学校に剣道部があるというのは珍しいが、伝統的に教育委員会のお

配で、剣道を専門に学んだ教員・体育教師とは限らない)が配置されているそうだ。平成23年に旧幡豆郡の三町を編入したが、その地域にも広げようと努力しているところだという。

平坂小学校では戦前から行なわれていた大会が「剣の式剣道大会」として戦後復活し、続けられている。また、西尾市剣道連盟では「サテライトプラン」として、剣道未経験者も参加できる小中学生の稽古会を各中学校の剣道会場にもなった。中部日本剣道大会はそんな「剣道のまち」を象徴する大会だった。